

いわて東北メディカル・メガバンク機構 研究計画書（概要）

研究題目	東日本大震災被災地における社会的孤立の経年変化、およびその関連要因の検討		研究期間	2022年6月13日～ 2026年3月31日	
実施責任者	丹野 高三	所属	臨床研究・疫学研究部門		職位 部門長
研究目的	<p>東日本大震災後、被災地では社会的孤立の割合が増加している。社会的孤立はメンタルヘルスだけでなく、死亡や心血管疾患との関連が示唆されているが、大規模災害後の地域住民を対象とした社会的孤立とその関連要因については明らかになっていない。</p> <p>本研究では、東日本大震災被災地における社会的孤立の経年変化、およびその関連要因を明らかにすることを目的とする。</p>				
研究計画概要	<p>申請者はTMM地域住民コホート調査のベースライン調査のデータを用いて、社会的孤立と抑うつ症状との関連について明らかにした(Kotozaki Y, et al., 2021)。</p> <p>社会的孤立は、一般的に公衆衛生上の大きな問題と認識されており(WHO, 2003; Lubben et al., 2003, 2006)、精神的健康の低下、疾病(高血圧、心血管疾患、癌など)、死亡率、認知機能低下のリスク上昇など、人々の健康に有害な結果をもたらすことが広く認識されている(Bassuk et al., 1999; Cacioppo et al., 2006)。しかしながら、社会的孤立の決定要因については、サンプルサイズの問題や関連要因のばらつきの指摘があり、さらに研究する余地がある。また震災による社会的孤立に関連する要因も明らかにされていない。災害後に社会的孤立に陥った人々の心理社会的特性を明らかにすることは、大規模自然災害発生後に、個人の特性に応じたどのような支援が必要かを検討するための情報を提供することになる。</p> <p>そこで、本研究では、TMM地域住民コホート調査のうち岩手分調査参加者約32,000人のコホート情報、および追跡情報(二次調査、三次調査、追跡調査)を用いて、東日本大震災被災地における社会的孤立の経年変化、およびその関連要因を検討する。</p>				